

地域で支えあうまちづくり懇談会

(H30. 1. 25 菩提寺まちづくりセンター)

「A グループ」

<高齢者の見守り>

- ・ 独居高齢者が将来的に身に問題が起きた時に頼れる人がいないので不安を感じる
- ・ 福祉の大半は「自力」で解決できる内容だ、従って老後を含めた人生設計(財畜)を考える必要がある、これが基本だ
- ・ 回覧板出すときの声かけ、見守りをしていくべき(見守りの体制)
- ・ 相談(さまざまな)の場所がわかりにくい、遠い
- ・ リハビリに特化したサービス事業所がない
- ・ 介護保険申請の仕方がわからない
- ・ 老後の生活の見守りを出入者で
- ・ 高齢者世帯、あまり外に出ない、交流などの人
- ・ 助けが必要な人を把握
- ・ 介護サービス事業所や医療機関は他のエリアより多くある
- ・ どこへ申請したら良いかわからない
- ・ 一人暮らし(独居高齢者)ほかの方との交流がない
- ・ 一人暮らし高齢者の見守り活動がむずかしい
- ・ 診療所は今機能しているか、老後の病院の設置

<障がい者への支援>

- ・ 障がいに対する偏見
- ・ 障がい者家庭認定されていない人たちが多く悩んでいる

<引きこもり対応>

- ・ 引きこもりの若者とその家族
- ・ 引きこもりの人、家庭が悩んでいる

<子育て等の問題>

- ・ 子ども家庭の不審な通報が難しい、早期対策を打つ
- ・ 人と人とが直接コミュニケーションをとることが減っている(メディアで繋がる)
- ・ 子供の成長を見守る祖父母とのつながりが少ない
- ・ 学校へ登校しない、不登校の生徒

<災害、その他>

- ・ 世帯間が交流する場がない
- ・ 高齢者の方の避難する際の手助け
- ・ 庁舎問題
- ・ 親子のつながりが少ない、省力、合理化が進み、地域のつながりが少ない
- ・ 命を守ることが最大の福祉である、他の小さな福祉とやらは、命あつての事であるそれが現在他国に脅かされている命を守るために何が必要か、市、地域住民は真剣に考える必要がある
- ・ 福祉に町が予算の割合を多くする
- ・ 介護の人が働きやすい環境、給料など
- ・ 働き方を変えないと支援者(福祉職)が離職していく休みを取りやすくなる
- ・ みんなが集まって何かをする機会を増やす→自治会活動
- ・ 北山台には何かあつたときの個人ファイル(連絡先)がある

「B グループ」

<子供の安全確保>

- ・通学路の安全対策
- ・子供の遊び方

<サービス情報伝達不足>

- ・病院通院
- ・買い物支援等

<課題の掘り起こし、共有化>

- ・高齢化
- ・地域の課題を見つける

<移動手段>

- ・高齢者の移動手段のバス不足（ドア to ドア）

<家族の理解と地域の理解不足>

- ・認知症の理解はされているが認識がない
- ・三上台で認知症のデイサービスをさせていただいているが、近くの利用者が少ない
- ・認知症の人の家族が気軽に応援を頼めるような理解、啓発
- ・徘徊される人がいてもわからない
- ・精神疾患の人と家族への理解と支援

<支援者不足（ボランティア）>

- ・組内の役員が出来なくなる
- ・自治会役員ボランティアの後継者不足
- ・災害時要支援者の支援者の確保
- ・ボランティアの啓発
- ・地域の顔の見える関係
- ・向こう3件となりのお付き合い
- ・隣組の強化

<一人暮らしの見守り体制の強化>

- ・一人暮らしの見守り体制
- ・一人暮らし世帯の増
- ・一人住まい、引きこもり、食事等、買い物
- ・介護認定されていないが必要だと思う人、予備軍
- ・一人世帯が増えていく
- ・一人住まい（身寄りなし又は逃げている）
- ・一人住まい、病院通院

「C グループ」

<高齢者（生活支援）>

- ・ 独立死を防ぐ対応策
- ・ コミュニケーションを取ることが必要
- ・ 独居の高齢者の方（90歳超）で車を運転して買い物に出かけられるので心配しています。車をやめていただく方法は？
- ・ 弱者の方にどこまで助けを出来るのか

<健康づくり>

- ・ 病気に対する勉強会をしてほしい
- ・ 健康寿命を長くするため運動する機会がもっとほしい

<レクリエーション>

- ・ 子供中心の活動、野外遊び、高齢者との楽しい集い
- ・ 夏祭り（自治会行事）、地域の楽しい集い

<個人情報開示>

- ・ 個人情報
- ・ 故郷から親を呼び寄せて同居された方 etc の情報が少ない
- ・ 引きこもりで困っている人がいます
- ・ 緊急連絡先を教えてくれない女性（75歳）民生委員さんもすぐ代わるから信用できないらしい
- ・ 絆づくり、地域住民の情報タイムリーに、情報開示
- ・ 独居の方が多くなっている
- ・ 介護の必要世帯の個人情報の共有

<コミュニケーション（絆）づくり>

- ・ 地域での人間関係が希薄
- ・ 縦のつながり、横、斜め

- ・ 人のつながりが少なくなっている
- ・ サロンに来てほしい、人が来られない
- ・ 高齢者福祉サロンの参加は女性ばかり、男性は出たがらない

<介護者の家族を助けあう地域づくり>

- ・ 認知症の方が増えて困っておられる

<防災、体制づくり訓練>

- ・ 緊急災害時における救助活動の体制の仕組み
- ・ 災害が起こったときの避難所対応
- ・ 防災、避難訓練

<安全（交通）環境づくり>

- ・ 交通の便が悪く出歩きにくい
- ・ 団地内の道路の平坦化（段差箇所の是正）
- ・ 総合病院への交通が不便
- ・ 交通手段（生活の中で車を多く使う地域）
- ・ 高齢者の足（移動）が少ない
- ・ 買い物支援、坂が多い、歩けない

「D グループ」

<自治会問題>

- ・(旧の中にできた新しい) 担当地区にアパートが 40 余りあり、人の把握が大変難しい、近くのアパートの人を知る手段が少ない
- ・自治会行事への参加者減少
- ・諸行事への参加少ない
- ・自治会役員になることが苦痛
- ・自治会機能が薄い(区からの情報)
- ・道路で会う人に知らない人が多い、挨拶しても知らないふりの人が多い
- ・空き家
- ・空き家が多く(みどり B) 気になります、草ボーボーだったり木が伸び放題だったり
- ・個人情報の扱いと支援活動の兼ね合いが難しい

<子供の環境>

- ・情報が共有できない(プライベートの事や個人情報保護法などでクローズしている)
- ・共働きなのか親が不在で子供が居場所を探している
- ・近所付き合いが少ない
- ・貧困家庭の子供支援

<老人の環境>

- ・老人の病院への送迎
- ・足の問題、車の免許を返し、身近に運転できる人がいなくなった時に買い物はどうするのか、病院はどうやって行くのか読んだら来てくれるお安い車があるといいですね

- ・高齢者の世帯の方が、外とつながりを敬遠される(機会はあるが)
- ・高齢者のドライバーが多く、交通事故が心配

<認知症>

- ・認知症の方に対しての接し方等を考える場所が少ない(教えてもらう)
- ・高齢者の集まりがあちこちで催されているがお世話する人も高齢者で、後継者が育たない現状があるように思う、働き盛りの若い人はどうやったら興味関心を持ってくれるのか
- ・独居でも子供が訪ねてきたり、仲良しさんが居たり、自分で出かけていく人はいいのですが、こもっている人の見守りはどうしたらいいのか

<外国人の方>

- ・外国の人が多い
- ・外人家庭の支援

<災害>

- ・災害時の避難場所まで遠い
- ・若者が少なく災害時には大変心配

<環境>

- ・街灯が少ない場所があり、子供たちやお年寄りが危ない
- ・ダンスや音楽など練習する場所がない(騒げる)
- ・地域内の街頭少なく、危険、不安
- ・小学生の通学路にある信号機が変則的な歩車分離で、子供の見守りが大変ヒヤヒヤする
- ・公園でボール遊びなど出来なくなってきた

ている

- ・交通信号が不足で、子供の通学（登下校）が不安

<地域>

- ・地域の方と過疎化（顔を見かけない、挨拶出来ない、人とのつながりが薄い）
- ・普段から隣近所の行き来があるといいのですが今は疎遠の方が多く、どうにかしてつながりたいのですが、難しいですよ
ね、出てこない人が
- ・近江台は地域的に孤立しやすいので、災害時は特に心配
- ・民生委員は男女一人ずつが良いと思う

「E グループ」

<災害時の対応>

- ・避難支援が必要と思うが、本人が同意しない
- ・要配慮者に対する支援

<親への支援>

- ・一親（寡夫）に対する手当て要件等

<交通量の多さでの危険大>

- ・トラックが多く交通に危険あり
- ・週末や祝日（連休）に渋滞が起こる
- ・見守り（小学生）
- ・特に児童

<交通の利便性の向上>

- ・JRの駅までの交通手段がない
- ・交通の利便性
- ・デマンドバス等

<高齢者との関わり>

- ・高齢化
- ・道が狭くて高齢者の歩行が危険
- ・独居老人の支援
- ・高齢者のゴミ出し支援
- ・元気な年寄りの活躍の場
- ・一人暮らし

<障がい者との関わり>

- ・障がい者

<子育て・支援>

- ・虐待かもしれない情報をもとに見守りをするが、家の外回りを散歩のふりをしてチラッと見る程度の方法しかない

- ・夏休み働きに出ている間、自由行動の小中学生低学年と幼稚園児
- ・児童に心理的外傷を与える行動を見かける
- ・子供の相談先の不足
- ・子供への親のしつけが厳しすぎる宅を見守るが、学校での参観での様子をつかおう方法しかない

<自治会>

- ・ゴミ
- ・自治会加入率

<空き家>

- ・空き家、空き地
- ・空き家が多い

「F グループ」

<交通手段>

- ・高齢者夫婦が多く 10 年先を思うと買い物など不安
- ・病院、買い物等で行動の足がない (バス)
- ・移動手段 (交通、買い物) の不便
- ・車の運転が心配
- ・高齢者の車の移動がいつまで出来るかの先心配

<高齢化>

- ・独身家庭が多い
- ・高齢者の一人暮らし (特に女性)
- ・一人暮らしの人で近所との付き合いがない人がある (自分もやがては…)
- ・今まで出来ていた作業が出来なくなってきた (冬タイヤの交換等)、近所の人と同じことがなかなか
- ・高齢者が多く年々増えている
- ・高齢者だけの世帯の増
- ・昼の時間人が少ない (高齢者のみ)
- ・内向的な性格なので、このような会合に出るのがづらい
- ・一人が家族は市や民生の支援があると思うが、高齢夫婦で片方が病気等で負担が大きい家庭もある
- ・高齢者 91 歳夫婦の不安を聞く
- ・区の役をしても人の名前を覚えられない
- ・同一敷地内別世帯
- ・道端にゴミ (袋ごと) 捨てる人が後をたたない
- ・非区民の増加
- ・娘さん夫婦が世帯に戻って帰っているが住民者として登録されていない、区の事業にも参加もなく現状が分からない

<現状>

- ・民生と区長との連携
- ・民生委員のなり手がいない
- ・町内の役員になる人がいない
- ・役員のなり手がいない
- ・区の高齢化
- ・近所との連携が遠くなりがち

<人間関係>

- ・「個人情報」についての理解

<共有要因>

- ・地域の方と手を取り合った課題として受け止めたい
- ・地域の福祉に関しては民生児童委員さんの役目になっている
- ・40 代の若い世代が同居せず他の地域で家を買って生活しているが将来は地元に戻る環境が全く作れていない、古い考えの方が多く見て主義である
- ・他人や人の悩みについては他人のプライバシーとして片づけてしまう
- ・他人を非難しないことが大切
- ・自分自身の高齢者としての恥ずかしさから脱却!
- ・情報の交換が大切
- ・実際に困ってい居る方の問題を本音で聞く場がない

<進行課題>

- ・子供 (小学生) が少ない
- ・空き家が現在 4 軒程度であるが、10 年後には 10 軒は超えるのではないかと思います
- ・一人住まいの方の防災

「Gグループ」

<意識の問題>

- ・福祉への大人、子供の意識の低さ

<一人暮らしの不安と問題>

- ・高齢世帯が比較的多い、徐々に一人住まいが多くなる
- ・高齢化で買い物など移動手段がなくなることの心配
- ・今後の一人暮らしの心配
- ・未婚の単身高齢者、一人暮らしの高齢者の支援
- ・高齢者の一人暮らし、地域でのつながり
- ・空き家が増えてくると思います
- ・今は大家族でいるが、子供が巣立って行ったらどうなるだろうか？
- ・近所付き合いについて、どのような付き合いが大切なのか？安心できる生活するためにどうゆうことをしていくか？

<横のつながりが薄くなる>

- ・区の加入率が低いため、把握が難しい
- ・岩根東口区の民生児童委員ですが、当区はアパートが多く把握が大変であり人がわかりません、良い方法があれば教えてください
- ・アパート、マンションの住民が、他区より多い、地域との交流が少ない
- ・外国人の住民が多い、把握が難しい
- ・個人情報保護法により、情報が得づらくっている

<障がい者と虐待をどうする>

認知症の人を地域がどうするか

- ・災害時の老人や障害者への支援方法
- ・虐待について、目に見えにくいものはどうするのか？

<災害時の共助が不安>

- ・災害時に市が思っているように人が移動出来るか
- ・災害時の避難経路が難しい、岩根は道中が狭くて心配がある

<次の世代を考える>

- ・学童保育所が大切である
- ・食生活について個々が注意すべきこと、地域の人がいかに健康を考えていけるか

<市への要望>

- ・まち協と区の役割分担（何かにつけて）今一つわかりにくい
- ・市の行事が多いと思う、例：市民運動会をやめても代替りの行事をやる
- ・市よりの連絡はホームページでは拡散しないのではないか？

「H グループ」

<困ったときに相談できる場所>

- ・岩根小学校区の方、特定健診率が低く、検診を受けていない人が多く、運動習慣のない人が多い
- ・介護疲れ、老老介護、親の介護のため離職
- ・空き家の解決、活用
- ・核家族が増えて子育てを身近に支援してもらう人がいない

<情報の提供>

- ・地域に押し付けて市は何をしようとしているか見えない
- ・個人情報の弊害をどうするか
- ・健康推進委員等個人の資格を持っている人の開示が、区長に推薦は言っている
- ・市からの情報が少ない、個人情報を盾に出し惜しみがあること、開示を

<地域とのつながり地域活動>

- ・組合の人に自治会に加入していただく
- ・アパートや組外世帯が増え、近隣との関係が疎遠になり見守りがなくなる
- ・旧在所、新しい人たち、とけこめない人
- ・自治会未加入の増加、ご近所との交流も少なく、つながりの弱い方への支援
- ・高齢化の一人暮らしの進行中での自治会離れが進行している現状をどうとらえるか
- ・地域の行事にあまり出たがらない

<交流の場づくり、生きがい、楽しみ>

- ・引きこもりの方の居場所づくり
- ・元気な高齢者が地域の高齢者を支える

- ・年寄りの交流の場が少ない
- ・老人の委託所あるいは地域で常に集まれる場所の確保やお世話のする人の問題
- ・包括支援センターが岩根から遠いので相談しづらい
- ・高齢者、家族と離れての生活、話し相手がない

<病院、買い物など移動手段>

- ・交通手段がなく困る（病院、買い物）
- ・高齢者が免許を返上され、移動手段に困っておられる
- ・地域の交通機関が不便のため高齢者の移動手段に困る
- ・巡回バスを福祉バスとして利用しやすいようにする（免許証を返納する者に割引券を発行する等）

<高齢者、一人暮らし世帯への支援>

- ・高齢化世帯や一人暮らしが増えると地域事業が成り立たなくなる（助け合いができない）
 - ・在宅障がい者等の方々を区で支援する方法を考えていきたい
 - ・高齢者、一人暮らし、近所のお付き合いが出来なくなる、助け合いが出来ない
 - ・高齢者、同居していても顔を合わせていない
 - ・一人暮らしが多くなってきている、確認に協力してもらえない
 - ・高齢者、病気になる、気づく人がいない
 - ・一人暮らしの人の支え方
- 一人暮らし世帯への声かけ